

私学の魂

浅野中学校・高等学校

神奈川の最人気校から全国有数の進学校へ！ 堅実な教育姿勢に改革の動きが加わり、 いま、静かな注目と期待を集める、 「九転十起」の男子進学校

JR 京浜東北線・京急線「新子安駅」から徒歩 8 分。横浜市神奈川区子安台という高台の地に、緑に囲まれた広大なキャンパスを持つ浅野中学・高等学校があります。

毎年 2 月 3 日の中学入試では神奈川の全域、さらに東京の各地から 2,000 名もの男子受験生と付き添いの保護者が集い、ひとつの風物詩となっています。

校訓は「九転十起」と「愛と和」。さらに、「各駅停車の教育」と「文武両道」という言葉が、現在の浅野中学・高等学校の気風を表す言葉となっています。

東京大学をはじめとした国公立の最難関大学への進学にも年々大きな期待が寄せられ、すでに全国屈指の進学校として評価を得ている同校ですが、さらに時代が求める教育の変化に対応し、創立 100 周年に向けたこの期に新たな教育環境の整備を実現。満を持して、ダイナミックな制度改革、授業改革に踏み出しています。

そうした同校の教育の特徴とめざすところについて、今回は校長の阿部義広先生と、教頭の出井善次先生にお話を伺いました。



校長 阿部義広先生

DATA

1

浅野中学校・高等学校

沿革 1920年 浅野総合中学校の設置が認可され、水崎基一氏が初代校長に就任する。
1948年 新学制により浅野中学校、高等学校として新制度に移行。
1987年 高校新校舎（現中学校舎）竣工。
1995年 本館、中学・高校新校舎竣工（エレベーター・冷暖房完備）。
2010年 阿部義広氏が第八代校長に就任する。

校長 阿部義広
所在地 神奈川県横浜市神奈川区子安台 1-3-1
TEL : 045(421)3281
<http://www.asano.ed.jp>

交通 JR・京急新子安駅より徒歩 8 分

今年も首都圏の男子校では、 最多の受験生が挑んだ 中学入試の大人気校

今春 2014 年 2 月 3 日、東京・神奈川の入試スタートから 3 日目を迎えたこの日、多くの神奈川の男子受験生にとって焦点となる、浅野中の入試が行われました。今年の応募者は 1,862 名。昨年より 74 名少ないとはいえ、それでも単独回の入試としては、首都圏の男子校で最大規模であることに変わりはありません。

もう 30 年近く前から、ひとつの男子校が 2,000 名近くの受験生を集め続けてきた、元祖「中学入試のオリンピック」というべき存在が、この 2 月 3 日の浅野中の入試なのです。その意味では、長らく首都圏で最も多くの男子受験生と保護者に注目され、目標とされてきた私立中高一貫校というべきでしょう。

この浅野中学・高等学校は、1920（大正 9）年、「京浜工業地帯の生みの親」とも言われる実業家・浅野總一郎によって創立されました。当初はアメリカのゲーリ・システムという勤労主義を導入し、学内の一角に設けられた工場による科学技術教育と実用的な語学教育を特色とする、当時では非常に先進的な私立学校でした。戦後まもなく中高一貫体制を確立し、1970 年代から飛躍的に大学進学実績を伸ばし、現在では神奈川県はもちろん、全国でも有数の進学校として高い評価を得るに至っています。

校訓は、創立者・浅野總一郎の失敗と成功の波乱万丈の生き方に基づいた「九転十起」と、クリスチャンであった初代校長・水崎基一の精神を基にした「愛と和」。さらに、後に第 2 の校訓といわれるようになった「各駅停車の教育」と「文武両道」という言葉が、現在の浅野中学・高等学校の気風と教育姿勢を支えています。

その気風を育てる下地となってきた浅野のキャンパスは、京浜工業地帯、ベイブリッジを眼下に見渡す高台に 58,655m² の広大な敷地を有し、その半分は「銅像山」と呼ばれる自然林に占められ、神奈川県のアマゾン林鳥獣保護区に指定される豊かな緑で包まれています。この雄大な自然環境のなかで、勉強と部活動に思い切り打ち込むことのできる、自由でかつ折り目正しさも併せ持つ大らかな男子校であることが、多くの男子受験生と保護者を惹きつけてきた魅力といえるでしょう。「銅像山」の頂上、校地の最も高台に位置する浅野總一郎の銅像は、いまでも毎日、京浜工業地帯を見渡しつつ、お膝元で日々の学校生活を過ごす、千六百数十名の男子生徒の成長を見守っています。



敷地のほぼ半分は銅像山と呼ばれる緑豊かな自然林。その頂にある創立者浅野總一郎翁の像が浅野生たちを温かく見守ります。

グローバル化の時代を迎え、 いざ改革への歩みを始めた 新生「各駅停車の教育」への期待

人と人との関係を大切に、温かみで人間的な進学校を標榜してきた浅野中学・高等学校。日々の学習はもちろん、学校行事や部活動に一途に取り組みながら、自らの目標に向けて一歩一歩進んでいくこと、仲間や先輩・後輩との結びつきを大切に、周りの人への気遣いを忘れず、同時に、季節の花々や風景にも心を動かせる“豊かさ”を持つ生徒を育てること。それこそが、浅野中高が一貫して謳い続けてきた「各駅停車の教育」という言葉の意味です。

神奈川県では不動の最人気の男子進学校として知られてきただけに、東京大学をはじめとした国公立の最難関大学への進学にも年々大きな期待が寄せられました。そうした保護者からの期待の高さと、県内の私学のなかでも高い実績を上げてきたことが、同時に同校にとって悩ましい面も生じさせています。たとえば、同じ神奈川県下の男子校のなかで、あえて部活動の（週あたりの）活動日数に制限を設けていない私学は希少な存在です。「しかし、それが逆に、わが子の大学進学に大きな期待を寄せる最近の保護者にとって、心配の種になってしまうという側面が出てきてしまった」と校長の阿部義広先生はいいます。



インターハイ・世界ジュニア選手権にも選手を送り込む伝統のボクシング部。サンドバックから鳴り響く重低音は迫力満点です！



取材当日のグラウンドでは野球部が練習中！広大なキャンパス内には他にもスポーツ施設が各種整い、生徒たちの健全な成長を促します。

しかし、そうした面についても、浅野の教育の良き伝統を守りつつ、進学面での期待にも応えうるカリキュラムや教材を工夫し、指導を押し進めていく構えで、保護者の期待に応え、なおかつ「浅野らしさ」を失うことなく、次の時代へと進化していこうとしているのです。一方、世間では「教育のグローバル化」の必要性が叫ばれ、将来はビジネスでも通用する高い英語力の育成や、海外大学への進学状況などにもスポットがあてられることになりました。2018年には「大学入試センター試験」の廃止という大学入試改革にも直面することになります。



教頭 出井善次先生

そうした、わが国の教育の転換期に、浅野中学・高等学校でも、各教科で課題を探り「今後どういう学力をどう育てていくべきか」というさまざまな議論が重ねられたと教頭の出井善次先生はいいます。昨年からは教員のなかで「5年先、10年先の浅野の教育がどうあるべきか」を考える「AAP（浅野の明日を考えるプロジェクト）」がスタート。阿部校長、出井教頭をはじめ、ベテラン～若手の世代から選任されたプロジェクトの担当教員が、同じ教員への世代別ヒアリング調査を行うなど、広く現場の意見も生かしていこうとする動きが始められています。そうした検討から導き出された意見・提案をもとに、昨年からは、各教員が専門や得意な分野を受け持ち、生徒が希望の講座を選んで受講できる「教養講座」も開始されました。

また、課題である「グローバル化」についても、生徒の家庭へ「留学への希望」調査を実施。85パーセントが「関心がある」との回答を受け、さまざまな検討を重ねた結果、満を持して今年から、高1・高2の

希望者による、米スタンフォード大学の研修プログラムへの参加という試みを実施しています。

このプログラムの選定に際しては、アメリカの一流大学のなかでも、教育研究に定評のあるハーバード大学をあえて選ばずに、「起業家を多く排出している」スタンフォード大学を研修先に選んだことにも、浅野中高の“進取”と“実学”を重視する伝統と、新たな時代を見据えた「AAP」のコンセプトを生かそうとする教師陣の想いが込められています。

取材に訪れた7月末は、ちょうどこのスタンフォード大学研修に渡米した生徒が帰国する日。阿部先生も出井先生も、生徒が一回り頼もしく成長して帰国し、その成果と土産話を聞かせてくれることを心待ちにしている様子でした。この新たな海外大学での研修プログラムの様子や、先の「教養講座」の様子、部活動での活躍をはじめ、最近の浅野中学・高等学校の生徒の日常が、同校のWebサイトのBlog記事で頻りに伝えられています。

とくに浅野中高が標榜する「各駅停車の教育」の真骨頂ともいえる部活動の様子は、同校に関心のある男子には必見の情報です。取材の日にも練習での雄姿を見せてくれたボクシング部員の県大会、関東大会での奮闘ぶりも、ここで見ることができます。

21世紀の新たな教育の舞台にもなる、新図書館＆新体育館が順次完成し、次なる浅野の歴史がスタート！

この2014年で創立95周年を迎えた浅野中学・高等学校。伝統を重ねると同時に進学校として躍進を遂げてきたこの40年間、常に堅実な教育姿勢を貫いてきましたが、いま同校は学園創立100周年に向け、さらに変化を遂げようとしています。

すでに今春、新図書館を竣工させ、いま建築中の新体育館も、この2014年末までには完成予定。



2014年末までに完成予定の「新体育館」完成予想図。

さらに充実した教育環境を整え、新たな歴史をスタートさせます。95周年記念事業として、広大な校地の奥に竣工した新図書館のコンセプトは、「知の扉を開き知る喜びを体感する」こと。取材に訪れた日は、すでに夏休みに入っていましたが、各部活動に打ち込む大勢の生徒のほかに、この新図書館で、読書や学習に励む生徒の姿が多く見られました。グループ学習や共同の調べ物ができるように、会話が可能なコミュニケーションスペースも設けられ、黙読のために静寂を確保した閲覧スペースと分離し、それぞれの目的に対応した空間が確保されています。

また新体育館のコンセプトは、「伸び伸びとかつ科学的に身体を鍛えられる最新設備を備えた、全天候型の充実したトレーニング環境の提供」。バスケットボールのコートが2面とれる広いメインアリーナと1周170メートルのランニングコースに加え、プール、剣道場、柔道場、ボクシングジム、屋上にはアーチェリー射場もある、3層構造の競技場が配置された広大な運動施設となります。トレーニングルームには最新のトレーニングマシン各種を完備。さらに災害時には、約2,000人（全校生徒と全教職員で約1,800名）が3日間寝食でき、プールの水を利用してトイレの排水を可能にするなど、災害対策にも配慮が行き届いた設計になっています。

また、実業界をはじめとした各界でのOBの幅広い活躍も浅野中高の特徴のひとつですが、そうしたOBからも強い要望が寄せられる「グローバル教育」については、学内に「グローバル推進委員会」を組織し、海外で活躍するOBのリストを作成するなど、今後の改革に生かしていく動きもすでに始められています。

また、最近の教育課題のひとつでもある「ICT教育」についても、すでに5年先まで計画し予算を確保し、一昨年には全教室にプロジェクターを導入。外観から

は目立たずとも、教員の授業の工夫や生徒の活動、情報共有に活用できる、教育設備・環境をスピーディーに整えつつあります。

「浅野中高の次の時代に向けての改革の柱のひとつは『制度改革』で、教員の研修制度や、生徒の海外研修プログラムの実施、英語の資格取得の流れなどを作っていくことです。もうひとつは『授業改革』です。これから研究や実験、検証など、さまざまな課題が出てきて、それらを一つひとつクリアしていくことがこれからの学校に求められると思います。これまで地道な教育姿勢を貫き、成果を認められながらも、外からは変化のスピードはやや遅いと見られがちだった浅野ですが、これから確実に良い意味で変化・進化していきます」と語る阿部先生。地に足を着け、じっくりと「各駅停車の教育」のもとで「文武両道」をめざし、校訓である「九転十起」「愛と和」の精神を守り続ける浅野中学・高等学校の、21世紀の新たな姿と教育の成果が楽しみです。



今春に完成した「新図書館」の蔵書は5年計画で7万冊に！自然科学や文学、歴史書などのほかに、人格形成や将来の職業選択に役立つ書籍も充実しています。

DATA
2

2014年大学合格状況・抜粋

国公立大学		私立大学		私立大学医学部	
東京大学	34	筑波大学	4	慶應義塾大学	144
京都大学	6	千葉大学	3	早稲田大学	165
一橋大学	17	横浜国立大学	7	上智大学	34
東京工業大学	20	東京医科歯科大学	1	東京理科大学	81
東北大学	7	東京外国語大学	1	立教大学	12
北海道大学	2	東京学芸大学	2	中央大学	29
大阪大学	2	電気通信大学	3	明治大学	84
		その他	13	青山学院大学	11
		計	122	法政大学	12
				東京慈恵会医科大学	4
				順天堂大学	4
				日本医科大学	1
				昭和大学	7
				東邦大学	2
				東京医科大学	3
				北里大学	4
				杏林大学	2
				埼玉医科大学	1